

第 3 1 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：令和 2 年 2 月 2 0 日（木） 1 0：0 0～1 2：0 0

2 場 所：京王プラザホテル 本館 4 7 階 ひかり
東京都新宿区西新宿 2-2-1

3 出席者：（委員）

- ◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
- 戸谷 好秀（独立行政法人統計センター特別参与）
- 兼川 真紀（弁護士）
- 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
- 斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
- 名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

- 加瀬 徳幸 官房審議官
- 荒木 健司 管理室長

4 議事次第

- ・令和元年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告について
- ・令和 2 年度平和祈念展示資料館の運営業務委託の概要について

5 議事要旨

令和元年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告について、委託業者より報告後、質疑応答が行われた。令和 2 年度平和祈念展示資料館の運営業務委託の概要について、事務局より説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 体験者が少なくなっている中で労苦を語り継いでいくことは難しいが、リピーターや新しい来館者を増やしていくために、大学とのコラボなど、今後も新しい展開をしていくと良いだろう。
- 地方巡回展で共催する自治体の所蔵資料を資料館が上手に展示することにより、自治体における展示の仕方や来場者の誘致などに良い刺激となるだろう。

- 体験者の証言を映像化する時は、著作権や肖像権などで問題にならないよう、法律的な対応をきちんとすることが必要ではないか。
- 資料に関する問合せをまとめておくと、今後の対応の参考となるのではないか。
- 所蔵資料情報の公開は、すぐに波及効果が現れるものではないため、5年、10年単位で考えて、我慢して続けていただきたい。
- 資料館のことが口伝えで広がっていくので、博物館学芸員資格取得のための実習希望の学生を、できるだけ資料館で受け入れていただきたい。
- 資料の収集について、収蔵スペースが限られているため、受入れに係る判断基準を明確にしていきたい。
- 資料館のテーマ自体がマイナーであるため、地方巡回展の際に作った地元の歴史系博物館とのつながりを大事にし、ホームページのリンクや SNS での連携などでフォローアップすることにより、お互いを盛り上げていく形を取れると良いのではないか。
- 厚生労働省社会・援護局とは重なる部分があり、相乗効果も期待できるため、昭和館などと連携をとっていただきたい。
- 今年は戦後 75 年であるので、来年度実施するイベント名には戦後 75 年をつけていくと興味を引くのではないか。

（ 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。 ）